



志田 光正 代表取締役副社長

## 人に寄り添い、社員の挑戦を後押し

▼強固な顧客基盤と長年の信頼関係をベースに、解体から鉄スクラップ、建設用鋼材の販売など一貫した循環サービスの提供をもって、自社が大きな存在感を示していくことを目標に掲げる。過去には管理部門の経験もあり、人事が組織にとってどれだけ重要か学ぶ機会となった。多くの人に寄り添ってよく話を聞き、

そのうえでいかに風通しの良い職場を実現できるか、社員の挑戦を後押しできるかが自分の果たす役割と考えている。

▼1992年に早稲田大学第一文学部西洋史学科を卒業後、三井物産に入社。最初の配属先は鉄鋼国内本部線材特殊鋼部ステンレス第一グループだった。その後、三井物産特殊鋼（のちの三井物産スチール）出向やドイツ、香港駐在。貿易業務や特殊鋼・

ステンレス製品の営業に長年取り組んだ。2018年2月には三井物産鉄鋼製品本部人事総務室長に。21年7月には三井物産スチール常務執行役員に就任。その翌年にはインフラ第一部門長、25年4月には三井物産の流通・インフラソリューション事業部長に就任。今年4月から現職。

▼線材、軸受、電磁鋼板、薄板3品、ブリキ、厚板、レールなどの営業に取り組んだ。新入社員だった頃、ゼネコンへ通いつめ、食品工場一面に敷き詰めるステンレスを受注できたことが印象深い。入社後数日間、新規顧客のアポ取りと訪問に毎日駆け回った日々がいまの自分のベールスになっている。現在建設現場の人手不足、資機材価格高騰などで建設需要が低迷するなか、省力・省人化、短工期化による差別化の成否が

今後の企業競争力を左右すると見る。これを踏まえつつ、いかに持続可能な事業構造へ転換するか、いかに人的資本の強化を図るかが鍵となる。今後注力したいこととして、鉄骨中心の工事領域を鉄筋、屋根・壁分野に広げること、サプライチェーンをさらに強化するM&A、さらに解体案件を起点に取引情報を一気通貫で照会できる「STEELAR HUB」（ステラハブ）の利用拡大についても実現を図っていく。

▼1969年4月生まれ。静岡市出身、清水東高校卒。学生時代は野球に没頭したこともありテレビでの試合観戦が趣味。夏の甲子園はほぼ全試合を観るという。またジョギングにも入れ込んでおり、多摩川沿いを10<sup>+</sup>ほど走ることを楽しんでいる。座右の銘は上杉鷹山の格言「為せば成る 為さねば成らぬ何事も成らぬは人の 為さぬなりけり」で、とくに後半の「成らぬは人の為さぬなりけり」の部分に共感を覚えるという。

（折）